

金剛禪総本山少林寺

多度津町にある金剛禪総本山少林寺は、1947 年に宗道臣（1911 年～1980 年）が開いた宗教、金剛禪の本部です。金剛禪の信徒は、肉体と精神の両方を鍛えると信じられている少林寺拳法を中心とした修行を通して、「自己確立」と「自他共楽」の実現を目指しています。少林寺拳法は、宗が第二次世界大戦中に中国に駐屯していた際にそこで学んだことをもとに、彼が整理・体系化した武術に重きを置いています。宗の教えは、信徒に自らの能力を他人のためと大義のために役立て、物質的にも精神的にも豊かで平和な社会を実現することを説いています。少林寺拳法は日本全国および世界の 38 の国々で信奉されています。

金剛禪総本山少林寺の大部分の施設は信徒専用で、一般には公開されていませんが、徒歩で赤色の仁王門（守護王の門）をくぐって本堂の天王殿へ行くことは許可されています。天王殿では、宗道臣の像のほか、少林寺拳法と中国・河南省にある嵩山少林寺とのつながりを記念した石碑を見学できます。嵩山少林寺は宗に義和門拳（嵩山少林寺の武術の一つ）の教えが伝授されたところです。毎年 10 月に開催されるお寺のだるま祭にも、少林寺拳法の教えに興味のある人は誰でも参加できます。